

No	19												
指標名	脳梗塞入院1週間以内のリハビリ強度												
定義	$\frac{\text{(分子) 入院7日目までのリハビリテーション施行単位数}}{\text{(分母) 一週間以上入院した急性脳梗塞症例数}}$ <p style="text-align: right;">※発症後3日以内に入院した患者が対象</p>												
結果	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>当院</th> <th>全国中央値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2017年度</td> <td>12.0</td> <td>9.9</td> </tr> <tr> <td>2018年度</td> <td>10.5</td> <td>11.0</td> </tr> <tr> <td>2019年度</td> <td>8.5</td> <td>11.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>(当院)2017年度、2018年度、2019年度における当院のデータ  (全国)2017年度、2018年度、2019年度に実施した病院の中央値 (2020/04/25時点)  ※他院との詳細な比較につきましては「<a href="#">全国自治体病院協議会 医療の質の評価・公表等推進事業</a>」のページをご参照ください。</p>	年度	当院	全国中央値	2017年度	12.0	9.9	2018年度	10.5	11.0	2019年度	8.5	11.0
年度	当院	全国中央値											
2017年度	12.0	9.9											
2018年度	10.5	11.0											
2019年度	8.5	11.0											
コメント (解説)	<p>脳梗塞では運動麻痺や言語障害などの様々な症状が出ます。早期からリハビリテーション(理学療法、作業療法、言語療法)を行った方が機能回復がよいとされます。</p> <p>積極的に取り組んでいる場合には単位数が高くなります。</p> <p>当院は全国中央値よりもやや単位数が多く、早期から複合的なリハビリテーションの介入を開始して、その評価を医師、看護師、リハビリテーションスタッフが緊密に行っている結果と考えます。</p> <p>2019年度は2018年度に比べやや低下しています。</p>												